

学校教育高度化センター関連事業（イノベーション科研）

基幹学習ユニットにおける本年度の活動

報告者 市川 伸一（教育学研究科 教授）

1. 基幹学習ユニットの役割

基幹学習ユニットは、これまでの学校教育の中で、内容的には教科や「総合的な学習の時間」などで行われていた学習を、「社会に生きる学力」という視点から見直し、新たなカリキュラムとして導入しようとするものである。

以下では、それぞれのプロジェクトの担当者が、進捗状況を報告する。（市川伸一）

2. 各プロジェクトの進捗状況

（1）学び方の学習プロジェクト

本プロジェクトは、児童・生徒がもつ学習観・学習方略を明らかにするとともに、教科における学習改善を自ら行っていくための知識や体験を得るためのカリキュラムを開発することをめざしている。これまでに、小・中・高校で、認知心理学でなされる記憶や問題解決のデモ実験を実施したり、いわゆる勉強法の解説などを行ったりはしてきたが、今年度は、テキスト、予習課題、授業、事後課題という構成を試み、埼玉県立川越高校（2年生全員）、同本庄高校（1～3年生全員）、岩手県立盛岡第一高校（大学見学に来た2年生20名への模擬授業）に対して実施し、課題や質問紙の回答を得た。また、東京大学附属中等教育学校の教員と今後の展開を計画中である。

（市川伸一・植阪友理）

（2）言語力育成プロジェクト

本プロジェクトは、とくに、中等教育段階における文法指導に関するカリキュラムと指導法に焦点をあてている。本年度はまず中等教育段階における国語科と英語科文法指導に関する先行調査研

究の文献レビューを行って問題意識を焦点化するとともに、東京大学教育学部附属中等教育学校の教員への文法指導に関する聞き取り調査やワークシートやカリキュラム収集を行った。その上でメタ文法能力育成を主眼とすることを決定し、生徒のもつ国語と英語の文法学習に対する意識が学年によりどう発達するか等を調べるための課題と質問紙調査項目、実践事例試案を作成した。調査に関しては1学年から5学年の生徒の皆さまにご協力をいただき現在分析検討中である。

（秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦）

（3）数理能力の育成プロジェクト

本プロジェクトは、社会に生きる数理能力を育成するための授業やカリキュラムを実証的に解明することを目的としている。2011年度は、東京大学教育学部附属中等教育学校、名古屋大学教育学部附属中・高等学校、およびいくつかの公立小学校をフィールドとして、児童・生徒の社会生活に関連するテーマを扱った授業を中学校の数学・理科、小学校の算数で試行し、授業検討会等を通じて、発問や場面設定などの有効性について検討した。

（藤村宣之）

（4）探究型学習プロジェクト

習得型学習のノウハウが明治学制以来の蓄積があるのに対して、探究型学習の学習プロセスについては不明の点が多い。これを明らかにするために、すべての生徒が卒業年次の前々年から1年間半をかけて学習の総決算として卒業研究に取り組んでいる東京大学教育学部附属中等教育学校をモデルとしてその作成過程全体の解明に取り組み、

さらにここにいくつかの働きかけをすることで探究型学習の基本的な在り方を見いだすこととする。本年度は、指導にあたった教員、研究を終えた6年生の生徒に対してそれぞれアンケート調査を行うとともに、卒業研究を進める拠点となる図書室の資料および機器の整備を行った。（根本 彰）